

2024年5月の振り返り & 今後のポイント

YMfg | ワイエムアセットマネジメント

商号等 ワイエムアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第44号
加入協会 一般社団法人投資信託協会

- 本資料は、情報提供を目的としてワイエムアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を推奨・勧誘するものではありません。
- 本資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 本資料に掲載されている当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 本資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。

2024年5月の振り返り

米国のインフレ目標到達までのラスト1マイルで一喜一憂

市場	変動要因 等
債券（金利）	<u>米国債券は上昇（金利は低下）</u> ・ 中旬まで、市場予想を下回る雇用統計や米国のCPI（消費者物価指数）が市場予想通り低下したのを好感し、金利は低下しました。 ・ 下旬は、FOMC議事要旨で「より長期に高水準での政策金利維持が望ましい」との意見が示されたことなどで、金利は低下幅を縮小しました。 <u>国内債券は下落（金利は上昇）</u> ・ 日銀が国債買入れ額の減額を発表したことや追加利上げや国債買入れの更なる減額観測の高まりから金利は上昇しました。
株式	<u>米国株式市場は上昇</u> ・ 米国の長期金利低下と米エヌビディアの好決算などを好感し、上昇しましたが、下旬には金利上昇を受け上げ幅を縮小しました。 <u>国内株式市場は上値の重い展開</u> ・ 国内企業の控えめな通期業績見通しや日銀の金融政策引締め観測を背景とした国内金利の上昇を嫌気し、上値の重い展開となりました。
リート	<u>国内リートは下落</u> 日銀の金融政策引締め観測を背景とした国内金利の上昇を嫌気し、下落しました。
為替	<u>ドル円為替相場は、概ね横ばい圏での推移</u> ・ 政府・日銀の円買い介入により、一時円高進行する局面がありましたが、旺盛な円売り・ドル買い需要を背景に月間では概ね横ばい圏で推移しました。

今後のポイント

◎最大の注目点は金融政策イベント、特に日銀金融政策決定会合に注目集まる

- 6月6日 ECB（欧州中央銀行）理事会 ～ 0.25%利下げ決定はほぼ確実で、7月以降はデータ次第というスタンスが予想されます。
- 6月12日 FOMC（米国連邦公開市場委員会） ～ 政策金利据え置きがほぼ確実ですが、政策金利見通しが3月FOMC時点と比べてどう変化するか注目されます。
- 6月14日 日銀金融政策決定会合 ～ 円安による基調的物価上昇リスクを軽減するために政策対応するか注目されます。

◎利上げが米国景気に効き始めた可能性

足許個人消費が減速

4月の個人消費は市場予想を下回る伸びに留まり、消費者の景況感も一部に悪化がみられています。要因としては以下の点が指摘されています。

- ・所得に対して高い物価水準や貯蓄率の低下
- ・価格引上げに対する許容度の低下、買い控え
- ・金利負担増加を主因としたカードローン残高の伸び悩み
- ・将来の雇用・所得に対する楽観的見方の後退

◎短期的には株価調整で上値が重い展開が継続する可能性

- ・株式市場においては、4－6月期決算発表が本格化する7月中旬まで業績の上方修正期待が高まりにくい中で、注目はFRBとECBの金融政策です。これまでより引き締めスタンスを弱めれば、相場上昇のサポート要因となります。
- ・国内株式については、日銀の金融引締め観測が上値を抑える要因になります。
- ・ドル円相場は、日米金利差との相関関係から見ればやや円安水準にあると思われ、今後行き過ぎた円安の修正が生じる可能性にも注意が必要です。
- ・通常円高は短期的に株安要因となることが多いのですが、行き過ぎた円安の副作用解消につながるため、長期的には株価にポジティブに働くものと考えています。